

令和7年度 1月の補導活動

佐久市少年センター

1 街頭補導実施回数	12回
2 延べ従事補導委員数	49人
3 相談件数	0件
4 補導した少年数	0人
5 声かけ人数	232人



1月の活動日誌から

1月5日(月)

1班(S・K)記

巡回経路 大型スーパー → 砂田公園 → 近津南公園 → ねむのき公園
→ 枇杷坂公園 → 市民交流ひろば → 大型スーパーゲームコーナー

活動の様子

平日の月曜日でしたが、学校がまだ冬休みだったこともあり、公園によっては親子連れや児童・生徒の姿が見られました。砂田公園では、女子中学生3人がベンチに座り、仲良く談笑していました。声かけをしてその場を去りました。近津南公園に人影はありませんでした。佐久平浅間児童館の脇を通り、ねむのき公園に寄りましたが、ここにも人影はありませんでした。枇杷坂公園に向かう途中、ゆりのき公園も目視しましたが、ひっそりとしていました。枇杷坂公園では、男子中学生3人が四阿(あずまや)に集まっていた。野球ごっこをしていたらしく、ひびのついたプラスチック製のバットを補修していました。ボールを飛ばしすぎたり、怪我をしたりしないように声かけをして公園を後にしました。市民交流ひろばでは、多くの子どもたちが遊んでいました。楽しそうに遊ぶ幼い子どもを、保護者が優しい眼差しで見守る様子が見て取れました。遊具の一部破損(アスレチック用のロープを編んだ網状の通路)を管理者に報告してありましたが、簡易的な補修がなされていることを確認しました。「太陽の広場」では、凧揚げをする親子の姿がありました。自作の凧で、風を受けて勢いよく揚がっていました。最後に大型スーパーを巡回しました。小さな子どもから大人まで、多くの来店客が見受けられました。移動中の通路で、中学生ぐらいの4人組の男子とすれ違いました。3人がベージュのストッキングを首から上に被り、それぞれの先端を1か所にまとめ、1人が3人を引き連れているという奇妙な行動を取っていました。声かけをしたところ、単なるおふざけ遊びで、いじめなどの



遊具の一部破損(アスレチック用のロープを編んだ網状の通路)を管理者に報告してありましたが、簡易的な補修がなされていることを確認しました。「太陽の広場」では、凧揚げをする親子の姿がありました。自作の凧で、風を受けて勢いよく揚がっていました。最後に大型スーパーを巡回しました。小さな子どもから大人まで、多くの来店客が見受けられました。移動中の通路で、中学生ぐらいの4人組の男子とすれ違いました。3人がベージュのストッキングを首から上に被り、それぞれの先端を1か所にまとめ、1人が3人を引き連れているという奇妙な行動を取っていました。声かけをしたところ、単なるおふざけ遊びで、いじめなどの

遊具の一部破損(アスレチック用のロープを編んだ網状の通路)を管理者に報告してありましたが、簡易的な補修がなされていることを確認しました。「太陽の広場」では、凧揚げをする親子の姿がありました。自作の凧で、風を受けて勢いよく揚がっていました。最後に大型スーパーを巡回しました。小さな子どもから大人まで、多くの来店客が見受けられました。移動中の通路で、中学生ぐらいの4人組の男子とすれ違いました。3人がベージュのストッキングを首から上に被り、それぞれの先端を1か所にまとめ、1人が3人を引き連れているという奇妙な行動を取っていました。声かけをしたところ、単なるおふざけ遊びで、いじめなどの



深刻な問題ではなさそうでした。ゲームコーナーやフードコートでは、特に問題となる事案はなく、新年の巡回を終了しました。

1月6日（火）

10班（S・E）記

巡回経路 取出町ふれあい公園 → 東田公園 → 橋場公園 → 水上公園
→ 平賀新町公園 → 佐久総合運動公園 → 成田公園 → 原公園
→ 城山公園 → 生涯学習センター

活動の様子

本日は公園を中心に巡回を行った。はじめに、取出町ふれあい公園に行ってみたが誰もいなかった。この公園は、夏には盆踊りが行われるなど、大勢の人たちが利用する公園であるが、冬期は水道凍結防止のために公衆トイレが閉鎖となっている。次に東田公園に行ってみると、男子中学生が、携帯電話で通話中であった。彼は、私たちの声かけに答えた後、急いだようすでその場を立ち去っていった。続いて巡回した橋場公園、水上公園、平賀新町公園も閑散としていた。そのため少し足を延ばし、佐久総合運動公園に行ってみると、高校生ぐらいの男子が数名、サッカー施設を利用していた。今後は教員の負担軽減のため、部活動の地域移行が進む模様で、サッカーや陸上、野球などの施設がそろったこの公園も頻繁に利用されるようになるだろうと、皆で話をしながらその場を離れた。成田公園、原公園に寄ってみたが、やはり閑散とした状況であった。最後に城山公園に行くと、30代から40代ぐらいの男性がベンチに座っていた。声を掛けると、茨城から自転車であつたとのことであつた。この公園にも子どもたちの姿はなかった。公園に子どもたちの姿がないのは、新学期の準備に追われているからかもしれない。集合場所の生涯学習センターにもどると、1階の「つどいの広場」に30人ぐらいの小・中・高校生、2階の「学習室」に20人ぐらいの中・高校生が、冬休みの宿題や受験勉強をしていた。

1月7日（水）

13班（T・M）記

巡回経路 中込会館 → 横町公園 → 城山児童館 → 橋場公園
→ 成田公園 → 中込児童館

活動の様子

朝は-11℃まで冷え込み、日中も5℃までしか上がらない寒い日の巡回でした。新年の松の内でもあつたので、公園で遊ぶ子どもは見当たりませんでした。佐久城山児童館と中込児童館を巡回した時は、元気よく外でボールを追い回す子どもたちの姿が見られました。佐久城山児童館では、通常100人を超す利用者があるそうですが、前日に引き続き30人ぐらいの利用状況でした。低学年の子どもが多く利用していました。中込児童館でも通常の30%ぐらいの利用で、その半分以上が低学年でした。薄着の上、素足で元気よく外で遊ぶ子どもを見て、若干の身震いを感じましたが、心が温まりました。

1月8日（木） 学校訪問（さやか星小学校）

16班（K・K）記

概要

今回、佐久市臼田地区の旧青沼小学校に2年前に開校した「さやか星小学校」を訪問しました。佐久市少年センターから活動の説明の後、副校長先生から、さやか星小学校の説明をしていただきました。教員数13名、児童数は現在35名で、市内からの通学児童が8

割を占め、小海線や送り迎えなどにより通学しているようです。教育方針は、ひとつの視点にしばられず、マルチな視点で子どもたちを見つめ、それぞれの価値を引き出すことを重視した「マルチのものさし」の考え方にに基づき、それぞれの児童に合った指導を行っているとのこと。休み時間は、先生が児童とのコミュニケーションや見守りを目的に、立ち合いを行っています。また、放課後は、近くにある青沼児童館を、約10人の児童が利用しており、そこではさやか星小学校以外の児童との良い交流が持たれているとのことでした。地域で結成された「さやか星小学校協力隊」は、餅つき、焼き芋、草刈りなど、学校の行事に協力しているそうです。副校長先生は、学校職員だけでは手の回らないさまざまな活動への地域の協力に、大変感謝されていました。最後に補導委員から、今後も地域との良好な関係を保ち続けてくださいとのお願いを申し上げ、和やかな会議は終わりました。



1月9日(金)

12班(T・E)記

巡回経路 生涯学習センター → 多目的広場 → 野沢児童館 → 原公園
→ 城山公園

活動の様子

冬晴れの肌寒い日の活動になりました。生涯学習センターの「つどいの広場」には、小学生が10人ほどと、いつもより少なめな印象ですが集っていました。2階の「学習室」には、一般と高校生、合わせて10人ほどが利用していました。多目的広場の「交流スペース」には10人ほどの小学生が、ゲーム機で遊んだり、宿題をしながら流行りのボンボンドロップシールを交換したりして、楽しそうに遊んでいました。その後も訪れる小学生が多かったため、もう少し遅い時間が子どもたちの集まるピークの様です。野沢児童館では、15人ほどが広場で駆け回っていました。野沢小学校で今日は、1年生がソリ、4、5、6年生がスキー教室だったとのこと、館に立ち寄らず帰宅した児童もいて、利用者は少なめなことでした。原公園では、父親をまねて女の子が、おもちゃのゴルフクラブで遊んでいました。城山公園には人影がありませんでした。



1月13日(火)

2, 4班(H・I)記

巡回経路 大型ゲームセンター → 小田井児童館 → 佐久平浅間児童館
活動の様子

本日は、2班、4班合同の補導活動でした。始めに大型ゲームセンターを巡回しました。二十歳前後の若者のグループが5、6組、年配者が4、5人ほどゲームを楽しんでいました。小学校の下校後、間もない時間帯だったためか、小学生の姿はありませんでした。次に、小田井児童館へ行きました。玄関を入ると正面に、折り紙で作った正月飾り



や、子どもたちが書いた絵馬が飾られていました。館を利用して子どもたちは15人ほどで、そのほとんどが低学年でした。寒い時期には利用者が少なく、保護者の迎えも早いとのことでした。最後に、佐久平浅間児童館へ行きました。普段より利用している児童の数は少ないとのことでしたが、とてもにぎやかでした。児童館から習い事へ行き、再び児童館に帰って来る児童も少なくないとのことですが、一人一人の動向管理が徹底されていました。児童が多くても、職員の方一人一人が子どもたちをよく見てくれているお陰で、保護者も安心して我が子を預けられるのではないかと思います。

1月14日(水)

8班(H・M)記

巡回経路 浅間会館 → 生涯学習センター → 野沢多目的広場

活動の様子

今日は晴れていましたが、風の冷たい日でした。今回初めて、生涯学習センター、野沢多目的広場を訪問、巡回しました。生涯学習センター1階「つどいの広場」には、18人ほどの児童が、学習したり、ゲーム機などで楽しんだりしていました。2階の学習室では、中・高生15人ほどが学習中でした。昨年オープンした野沢多目的広場の人工芝エリアでは、中学生6人がサッカー、キャッチボールなどを楽しんでいます。交流スペースでは、小学生10人くらいが、勉強したり、ゲームをしたりして過ごしていました。テラスでは、4人の女子児童が寒い中、漢字書き取りの勉強をしていました。横の敷地では、子育て支援の拠点施設を工事中で、オープンすれば、この多目的広場の整備事業も完成に近くようです。このような施設は、野沢地区をはじめ他の地区の市民・子どもたちが安心して過ごせる施設になると思います。

1月15日(木)

6班(専門補導委員)記

巡回経路 大型スーパー → 市民交流ひろば → 砂田公園 → 若宮公園
→ 一本柳公園 → 大型スーパー・フードコート → ゲームコーナー

活動の様子

見渡す限り厚い雲に覆われている。雪の心配はなさそうだが、温度計の示す気温よりだいぶ寒さを感じる。新学期が始まって1週間ほどになるが、子どもたちは希望に満ちた新年のスタートが切れただろうか。そんなことを考えながら補導活動に向かった。3時半を過ぎ、大きなランドセルを背負った数名の小学生が帰路を急いでいる。小学1年生に違いないが、安全に気を配りながら歩く姿に、心を動かされた。集合場所で補導委員の方とあいさつを交わし、簡単な打ち合わせをした。今日は、近くの公園を中心に、大型スーパーのフードコート、ゲームコーナーを巡視することにした。市民交流ひろばの駐車場には車も少なく、親子連れが数組、遊具で遊んでいた。砂田公園、若宮公園、一本柳公園と巡回を進めたが、人影は皆無であった。時間的に早いこともあるだろうが、やはり天気の影響は大きい。太陽の光が降り注ぎ、子どもたちの歓声が響いていた夏の日の情景を思い浮かべた。大型スーパーの来店客も少なめであった。いつもなら学生でにぎわうフードコート



に、今日は高校生の姿がない。小学生らしい2人の女兒に声をかけると、宿題の手を止めて、少し不安そうな表情を見せた。私たちの身分や用件を話すと、小学5年生であることや、母親を待っていることを、はきはきとした口調で答えてくれた。宿題の様子を少し見守り、礼を言って別れた。今日は不思議なほど子どもたちを見かけなかったが、帰りがけ、校庭を元気に駆け回る中学生の姿に心が和んだ。

1月16日(金)

17班(K・I)記

巡回経路 臼田交番 → 下の宮公園 → 臼田児童館 → コスモホール
→ 切原児童館

活動の様子

早春を思わせる暖かい天候の下、巡回活動を実施しました。まず向かったのは下の宮公園です。公園には誰もいませんでしたが、公園のトイレを定期的に掃除していただいている方を見かけ、頭が下がる思いがしました。臼田児童館を訪れると、1、2年生の児童13人が来館しており、宿題や遊びの準備をしていました。館長さんから、インフルエンザの流行は減少しており、正月の利用者は少なかったとのことでした。宿題をしていた2年生の女子児童に声をかけ、宿題の内容を聞くと、自分の名前の由来についての宿題でした。最近の子どもたちの名前には、私たちが読めないような名前が付けられており、時の流れを感じました。次にコスモホールを訪れ、事務局長さんからお話をうかがいました。キッズコーナーや自由広場が設けられ、利用率が上がってきたとのことでした。館内には、冬休みに親子で作った折り紙の作品が展示されており、温かい雰囲気が感じられました。最後に切原児童館を訪れました。児童18人が宿題、地図パズル、バスケットボールなどをして元気に遊んでいました。この時期は、庭が霜柱の凍上(とうじょう)で使えないため、人工芝でも敷設してあれば屋外で遊ぶ児童も見られるのではないかと思います。今年は馬年!地域の子どもたちが飛躍できる1年になりますようお祈りいたします。



1月19日(月)

11班(O・T)記

巡回経路 生涯学習センター → 野沢多目的広場 → 泉団地内公園
→ 泉野団地内公園 → ヘルシーテラス佐久南 → 生涯学習センター

活動の様子

昨日、大学入学共通テストを終えたばかりであるが、生涯学習センターのつどいの広場と学習室では、多くの高校3年生の生徒たちが受験勉強に励んでいた。大学受験シーズンがいよいよやってきたが、後悔のないよう頑張ってもらいたいと思った。野沢多目的広場は、いつもは子どもたちがいてにぎわっているが、今日は珍しく閑散としていた。泉団地内公園では、小学校高学年の男の子3人が仲良くゲームをしていた。とてもひょうきんな子たちで、一つ聞くと十返ってくるような元気な子たちであった。泉野団地内公園では、中学

3年生の男の子3人が遊んでいた。私たちの質問に対して、元気に受け答えしてくれた。泉小学校区の子どもたちは、明るく元気な子が多い印象を受けた。その後、ヘルシーテラス佐久南の公園を通ったが、誰もいなかった。生涯学習センターへもどる道路では、中学生が帰宅する姿を多く見かけた。寒さに負けず、楽しい学校生活を送ってほしいと思いながら、本日の活動を終えた。

1月20日(火) 学校訪問(佐久城山小学校)

15班(I・K)記

概要

佐久城山小学校を訪問しました。小学校からは、教頭先生、生徒指導係の先生に参加いただきました。児童数383名、教員数38名で、教育目標「自分の手足を動かし、頭を働かせ、心で感じとる」を掲げ、児童の教育に当たっているとのこと。特徴的なのは、教育課程を見直し、1単位時間40分授業、午前5時間制を導入していることですが、この日課による学力低下、給食時間の遅れなど、問題はないようです。また、学校裁量の時間の中に「私の時間」を設けているとうかがいました。「私の時間」は、児童が自分の学びを主体的に設計し取り組む自己開発プログラムです。また、児童の活動は、「城山LIVE」と称する自分の学びを表現する場で発表しています。この場での地域、保護者など、幅広い方々との出会いが、児童の新たな追究の種まきになると考えているとのこと。生徒指導上の問題では、校外に子どもたちが集まる公共の場所がなく、校外での生徒指導事例は少ない一方、4割程度の児童が児童館を利用しており、児童館の収容能力を超えている現状があるようです。SNSの問題など、現代社会の環境に対応していく難しさはあるものの、保護者と相談しながら問題解決に当たっているとお話しいただきました。先生方は、佐久市コミュニティスクールへの協力など、地域の皆様の協力に謝意を述べられましたが、私たちも子どもの目線で何ができるか、再度考える必要があると思いました。



1月21日(水)

3班(T・H)記

巡回経路

大型スーパー → 砂田公園 → さくまんが舎 → 市民交流ひろば
→ 大型スーパーのゲームコーナー

活動の様子



早朝の気温が-11℃と、酷寒の中での巡回活動でした。砂田公園には、中学生6人がいました。前日、この公園で忘れ物をしてしまい、友人たちと探しに来たそうです。隣にある「さくまんが舎」を訪ねると、スタッフの方々は、舎内改装の最中でしたが、作業の手を止めて対応してくださいました。入館は無料で、休日には親子で見学に訪れる小中学生もいるようです。「武論尊100時間漫画塾」を卒業した塾生のうち、30名程がプロで活躍されているとうかがいましたが、そうした方々の作品も展示されていました。市民交流ひろばでは、数組の親子連れが遊んでいました。楽しそうに遊ぶ小さなお子さんとは対照的に、見守る大人

たちは、身を震わせて寒さに耐えているようでした。プレイサークルでバスケットをしている男の子に声をかけました。小学5年生で、近くにいたおばあちゃんと来ていました。大型スーパーのゲームコーナーの来店客は、いつもより少なめでしたが、数人の子どもたちがゲームに歓声を上げていました。市外の学校に通う小学生で、保護者を待っているとのことでした。しばらく様子を見守ってその場を離れました。

1月22日(木) 学校訪問(望月小学校)

19班(Y・T)記

概要

望月地区を担当している補導委員2名と専門補導委員2名、および事務局1名の計5名で望月小学校を訪問しました。教頭先生、生徒指導係の先生2名の計3名に対応いただきました。会議は図書室で行われ、最初に教頭先生からあいさつをいただき、次に専門補導員から活動概要が説明されました。その後、学校側からお話をいただきました。望月小学校はバス通学の児童が多く、その他の児童の多くは、下校時に家族の迎えを待つ間、児童館を利用しているとの説明がありました。下校時には、教職員が敷地を出るまで、子どもたちを見守っているとのことでした。最近の様子については、今年の児童は落ち着いて学んでいるとのことでした。個々の生徒指導上の問題には、係を中心に迅速な対応ができており、必要に応じて親を交えた指導がなされているようです。また、学校の近くで若者によるスクーターバイクが、故意に騒音を立てている事案が発生しているようです。その他、スマートフォンは、4年生以上では半数以上が所持していると話されていました。巡回時、自転車に乗る児童をあまり見かけないことから、自転車の乗り方について尋ねると、4月に交通安全教室で指導を行っていると回答いただきました。今回の訪問で、学校から様々な情報提供をいただきました。



1月26日(月)

9班(F・H)記

巡回経路 生涯学習センター → 多目的広場 → 原公園 → 中嶋公園
→ 城山公園

活動の様子

今季最長の寒波の影響で、積雪はないものの、身にこたえる寒さの毎日である。生涯学習センターのつどいの広場には、「小学生・午後7時まで、中学生・午後8時まで、高校生・午後9時まで、一般・午後10時まで」と、利用時間を記した掲示が掲げられていた。2階の学習室では、高校生20人が、静寂の中で集中して学習していた。オレンジ色の冊子は、大学入試の問題集で、大学入学共通テストを終えた高校生は、来るべき入学試験に向けて、受験勉強に余念がない。野沢多目的広場の交流施設を訪れると、小学生8人、高校生6人が利用していた。3人の女子児童のグループに声をかけると、うれしそうに流行りのボンボンドロップシールを見せてくれた。シールのコレクションが10冊あると自慢



げに話してくれたが、高価なシールもあって、お小遣いの使い方が気になった。施設を出たところ、すべる坂で、小学生4人と未就学のお子さんが遊んでいた。肌を刺すような外気に、「寒くない？」と問いかけたが、「寒いけど楽しい」と答え、何回も坂を上っては滑り降りていた。幼児を見守っていた母親は、「早く施設に入りたいが、子どもが言うことを聞いてくれない」と、少しあきれ顔で話してくれた。原公園、中嶋公園、城山公園と巡回したが、どの公園にも人影はなかった。冷たい風が吹きすさび、体感温度がかなり低い日であったが、まさに「子どもは風の子」のことば通りの1日であった。

1月27日(火) 学校訪問(サミットアカデミー・エレメンタリースクール佐久)

5班(T・R)記

概要

サミットアカデミー・エレメンタリースクール佐久を訪問しました。直前まで、はたしてどんな学校なのだろうかと思いつながら、会場に案内されました。オープンスタイルの教室を見学しながら用意された会場に入ると、教頭先生が対応してくださいました。開校2年目の新しい学校で、その教育理念は「自由と愛」。子どもたちに備わっている可能性を引き出し、それを愛によって支援していくという教育方針がうたわれています。そうした



教育理念の下、日本人としての資質を身につけ、世界の舞台で地球に貢献できる人材の育成を目指し、英語教育に力を入れています。日本人教諭と外国人教諭の2名担任制を敷き、英語で行う楽しいアクティビティや教科の学習、毎朝の英語活動など、まさに「英語



のシャワーを浴びる学校」と表現される教育がおこなわれています。古い考えの私には、日本語の充実が先ではと思ってしまうのですが、日本語や和の文化も大切にされているとのことでした。最後に教頭先生から、「地域の情報入手が難しい現状であるため、さまざまな情報を教えていただけるとありがたい。学校訪問も大歓迎」とのことばをいただきました。また機会があったら、本校を訪れてみたいと思った今日の活動でした。

1月28日(水)

14班(T・K)記

巡回経路

中込会館 → 佐太夫町公園 → 横町公園 → 水上公園
→ 平賀新町公園 → 佐久城山児童館 → 生涯学習センター

活動の様子

天候は曇り、気温は0℃～1℃と寒い日だったこともあり、巡回した公園に児童は1人も見当たらなかった。次に、佐久城山児童館を訪問した。この児童館は、佐久城山小学校に隣接していることもあり、佐久市内でも利用児童数が多い児童館の一つである。日々120人～130人ほどが利用しており、訪問日にも120人くらいの児童が利用していた。この児童数に対して、登録している職員は15名ほどおり、その中からこの日は6名の職員で対応しているとのことであった。裏庭や体育館など、指導エリアが広いことから、職員同士インカムで連絡を取り合っていた。加えて、活発に動き回る児童が多く、非常に忙しく対応

されていた。異なる学年の児童同士の遊びでは、トラブルが発生することもあるようだが、職員が迅速に対応していた。続いて佐久市生涯学習センターを訪問した。一階の「つどいの広場」では、小学生、中学生、高校生、一般など、大勢が学習やゲームなどで利用していた。小学生は下校時間が16時半とのことで、そろそろ帰宅するようすであった。二階の「学習室」では、高校生を中心に、中学生も若干名が利用しており、30人余が静かに学習していた。中学生の一人は、近日中に受験とのことであった。普段の学習成果を出し切って、志望校に合格するよう頑張ってもらいたい。児童生徒に暖かい環境を提供できるこのような施設の存在は、非常によいことだと思う。

1月29日（木） 学校訪問（平根小学校）

7班（専門補導委員）記

概要

全国的な寒波の続く中、佐久市立平根小学校を訪問しました。小学校からは、校長先生、教頭先生、生徒指導係の先生に出席いただきました。冒頭、教頭先生は、学校のシンボリックな存在でもあった大樹の桜が、台風により倒れ、伐採に至ったことを残念がられていました。学校目標「聴く・明るく・たくましく」のもと、177名の児童が元気に学校生活を送っています。現在、全学年1クラスずつの学級編成ですが、学区内に住宅が増えており、再来年度の入学児童は、久しぶりに2クラスになる予定だそうです。学習活動は、子どもたちの自主性や探究心を重視し、学びのスパイラルを通して成果を上げているようです。また、「パラダイムの時間」を設け、国旗についてや、タイピング、プログラミング、料理など、子どもたちのやりたいことをグループで学んでいます。今後、学びの成果をどのように発信していくかが課題だそうです。外部講師によるクラブ活動も盛んな印象を受けました。生徒指導上の問題では、長期欠席や不登校、SNSの問題などについてうかがいましたが、親身に児童に寄り添っていただいていると感じました。学校前の道路の交通量が多く、交通事故を心配しましたが、ここ2年程、交通事故はないとのことで、先生方の登下校時の配慮に感謝したいと思います。地域で子どもの姿を見かけることが減っている現状を踏まえ、私たちはこれから、どのように子どもたちの安全、安心を支えていけばよいのか考える機会となりました。



1月30日（金） 学校訪問（浅科小学校）

18班（M・Y）記

概要

浅科小学校を訪問した。会場に案内され、先生、児童らがともにふ化させ飼育している鶏の卵を使用したプリンをいただいた。この取り組みは、後の懇談会で説明された学校概要や児童の学習活動とも関連しており、学校全体で取り組んでいる「食育」の位置づけを象徴するものであった。懇談会では、プレゼンテーションを用いて学校生活の様子が紹介された。映像は児童の活動の瞬間を的確に捉えており、日常の学びの中で児童が主体的に取り組む姿が伝わってきた。学校では「食育」を重視し、地域と連携した体験学習を学年ごとに計画している。特産品であるコメ、豆腐、カボチャ等に関わる活動を通して、児童



が五感を使って学ぶ機会が確保されている。体験を通じて得た感覚的な情報を仲間と共有し、自ら考える学びは、デジタル機器を介した協働では得難い貴重な教育的価値を持つと考えられる。さらに、教員加配により、算数の授業を少人数の2講座で実施していることが報告された。「わかる授業」を重視した指導体制により、教室の落ち着きが確保されているとのことであり、教職員の日々の尽力がうかがえた。提供いただいたプリンへの謝意を伝え、照明のついた体育館でバレーボールクラブの児童が元気に活動している様子を見ながら帰途についた。

1月の活動を終えて 専門補導委員 (S・T 記)

☆☆☆ 大切なのは… ☆☆☆

映画を観る機会があった。主人公は、耳の聞こえない両親のもとに生まれ、自身は聴者で、いわゆる「コーダ(CODA)」として成長していく内容のものだった。主人公は、幼いころは両親の愛情を一心に受け、笑顔の絶えない生活を送っていた。ただ、普段の生活の中で私たちには無い「気づき」が描かれていた。例えば、吹きこぼれる鍋の音、子どもの泣く声、車のクラクションなどが聴こえない両親の状態を自分に当てはめて想像してみると、危険は近くに潜んでいることを実感するのであった。主人公は、そんな両親を支えながら日々過ごしていた。主人公は、中学、高校と成長していく中で一般家庭同様に反抗期を迎える。そして、思い通りにいかない自分に苛立ち、その矛先を母親に向けるのだった。それでも母親は主人公を信じ、応援する。やがて東京に出た主人公は、偶然、ろう者のサークル活動に参加した。ある日、居酒屋での会食の機会があった。参加者の注文内容を、聴者の主人公が店員を呼び、口頭で注文するシーンがあった。会食の後、参加者の1人が「注文してくれてありがとう。でも私たちの出来ることを取らないでね」と手話で伝えるのだった。目から鱗だった。聴こえなくてもやれることはある、伝える手段はいくらでも工夫できるとの強い意志を感じた。そうした力強く生活している仲間を通し、改めて両親の深い愛情と強さを主人公は感じとることができたのではないかと私は思う。映画を観終わって何とも言えない気持ちになった。このような映画が上映され、伝えたいメッセージをどう受け止めるか心に留めておきたい。エンドロールも終わり会場が明るくなると、何人かの人が手話で会話している様子があった。気にすると見えないものも見えてくる。この方たちはどのような思いでこの映画を鑑賞されたのだろうか。普通に生活できる者にとって、自身の今に感謝しなければならない。大切なのは「心の健康」である。さて、映画の中で手話にも方言があるのは興味深かった。主人公は東北出身で、東京での手話の会話に「それは東京では、こう」と仲間に見せられ、笑顔で答える場面があった。故郷の方言を思い出し思わず苦笑いしたのだろう。佐久市には「佐久市手話言語条例」がある。みなさんも一度、この条例に触れてみてはどうだろうか。

*コーダ(CODA) : Children of Deaf Adults